を実感したものだ。

三城から百曲りコースで登り

路の道程は、

武石峰から袴越

→芦の田池

(美鈴湖)

を経て 泉街

まさに『風が十字に荒ぶれ狂ふ』

春の嵐メイストームにも遭遇。

王ヶ頭で小半時を過ごす間に

でした。

は県陵17期、

を通した。 営に向うパレードを目の当たり にした。松本城や名所旧跡も巡 意に打たれ来松。 寄り、 千余名が凱旋。 した松本歩兵五十連隊の将兵前日は、山東出兵で満州に駐 材料を集めた。 お城近くの樋口翠松堂に立 歌する高野だが、 趣味の書画骨董にも目 電車通りを兵 自ら校歌作 小松の 詞 熱

けたい。 詞の校歌を、 とつと言える。 の校歌の中でも、

> 前に調査しようと毎週沢渡~ 査では東京電力のダムができる

稲

たいものだ。 Ě 虚実を取り交ぜての二 同学同窓の絆をより強

滑稽譚である。 「若き我等」

回 中 島 睦

雄

最近地学部のOB会が 部活は地学部 平成28年7月に開催された総会 活発に開催されるようになり

措置されます。



高校3年の時 王ヶ頭(2034m)で 校歌を歌う

だ。260年も続く老舗の酒せ」 旨さに銘柄を問うた。 は 「松本の在、 好物の地酒を所望。 坂北村の、山清、 宿の主人 余り Ó

> して頂きました。 で以下の3人合わ

せて

お祝

13

を

斯界の泰斗、 斯くて米沢⇔高野⇔小松の長 帰京した高野はすぐさま作詞 小松の許へ送った。 信時潔に。 作曲 は

れは、高野が作詞した全国百余 時の東京音楽学校コンビの連携 野師範学校トリオと、高野⇔信 による二中校歌が誕生した。 「若き我等」と副題の付いたそ 最高傑作 のひ

固に、県陵のさらなる発展に努 る歓びと誇りを県陵人は持ち続 県陵の宝とも言うべき高野 声高らかに斉唱す 作

中校歌 誕生物語の

玉

の湯に止宿した。

風呂浴びた夕食の

の席で、

高

·郷村浅間へ。下浅間温

0

観測をしました。梓川の地質調 ントに泊まり込み24時間交代で 発で、大滝山の気象観測ではテ 褒章を受章することができまし 月里親会の活動が評価され藍綬 賞されました。私は平成28年4 が日本天文学会天文功労賞を受 に掲載された高28回下田力さん 窓会報第34号の同窓生のコラム 誨師で藍綬褒章を受章され、 現役当時の地学部は活動が活 川禅隆先輩が平成 19年に教 同

殆どしませんでした。 年生の時も調査と観測で勉強は 核下流まで出かけました。 今思うと大学受験を控えたる

親につ と思います。 るが、内容を知らない方が多 里親について言葉は知って いて触れさせて頂きます。 少し里親制度の里 61

里親 (養育里親に含まれる。) に特に養育の難しい子どもは専門 児童を家庭で養育するものです。 親族里親の3種類があり要保護 養育里親·養子縁組里親 知事が認定します。 親とは児童福祉法で定めら 里親に

ばと思

里親には里親手当が支払われま 親は2年毎に更新します。 養育里親は5年 養護施設と同じ立 毎に、 専門里

とができ、 生活を通して愛着形成を図るこ 野県も平成25年に社会的養護 府県市に通達を出しており、 きます。 野県家庭的養護推進計画を策定 あり方について、平成27年に長 家庭養育を推進するように都 しました。 近年厚労省では要保護児童 家庭養護は家庭での 当たり前の生活が 長

になり、 員会、 要な子どもの委託先が里親優先 厚労省の通達で社会的養護が必 長野県でも児童福祉法の改 里親促進事業、 里親を取り巻く検討委 里親フォ

児童の役 も要保護 わせ、検の打ち合 長野県と に立てれ 討会が多 活動して おります。 く少しで ーラムと € √ 第56回 長野県 里親大会 · 里親研修会

深志神社 梅 風 閣

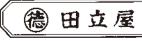
宮司 遠藤久芳(高19回)一九会

〒390-0815 松本市深志3-7-43

FAX (0263) 32-5908

TEL 0263-32-6310





代表取締役 大宮康彦(高17回)

長野県松本市大手3-3-4(大名町) TEL 0263(32)0057 FAX 0263(34)2561



全日本シティホテル連盟会員・政府登録

縣 正長 (高 17 回) 秀享(高23回) 縣

〒390-0815 長野県松本市深志2丁目4-24 TEL 0263-33-9000 FAX 0263-36-6435 http://www.trist.co.jp/